

新風会・公明
吉田清隆
議員



○ 災害時の周知について ○ 市道の整備について

その他の質問
・女性消防職員の確保について

議 8月4日に奥越地方を中心に線状降水帯が発生し、勝山市は午前10時に市内全域に警戒レベル4相当の避難指示を出し、避難所を開設した。警戒レベル4相当の避難指示は、災害発生のおそれが高く、生命を守る必要がある。

理 市には防災無線があり、水害に対する放送を随時行う必要があったと思うが、放送はなかった。当日、なぜ放送できなかったのか。

議 今後の災害時に対して市民への周知について伺う。

理 周囲の音を聞き消す大雨の状況等から電子媒体による情報提供を優先し、結果的に防災行政無線による一斉放送を失念した。大雨がピークアウトした12時55分になっても的外れな熱中症への注意喚起放送が繰り返し流れていたことも含め、対策本部の落ち度だと深く反省している。

議 現在、市民に告知する手段、タイミング等の検証を始めているが、当面は、防災行政無線やライン、緊急メール、音声一斉配信サービス、ホームページ等で市民に災害に関する情報の周知を図っていく。

議 勝山市にはアスファルトやコンクリートで舗装された道路は約39.2kmあり、年間の整備状況は3km弱となっている。今後の市道整備計画について、年間整備率を向上させることはできないか。

理 また、国交省は10、20年の長期で考えれば安く済むとの考えで、コンクリート舗装の導入を視野に入れているが、勝山市もそれを視野に入れて市道整備に関する維持管理費の低減を進めることはできないか。

理 年間4000万円程度の予算を確保し、舗装の改修を行っているが、近年は国の施策により橋梁の定期点検や修繕工事を優先する予算配分となつていくことから、当分の間は整備率を向上させることは難しい。

議 コンクリート舗装の導入については、市道のほとんどが生活に密着した道路で、道内に上水道や下水道等の占用物件があり、掘り返しや復旧も容易なアスファルト舗装としている。こうした占用物件が将来的に発生しない路線があれば、コンクリート舗装の導入も検討していく。

新風会・公明
松本聖司郎
議員



○ 観光関連について ○ 災害対策専門要員について

議 実家の仕事柄、他の観光業のフレームをよく伺う。フレームは、疲労や自分たちはいいことをやっているという慢心で、客や他の業者と違った他の対象への意識が薄れた場所から必ず起こる。

理 今後、観光業に携わる事業者への意識の根付かせをどのように行っていく方針なのか。

理 地域の各観光事業者が一体となって、相互におもてなしの意識を高めていくことが必要と考えている。

理 来年夏の福井県立恐竜博物館のリニューアルを控え、今まで以上の観光客を迎えることとなるため、勝山商工会議所を中心に勝山市観光まちづくり株式会社や観光関連事業による意識改革のための取り組みを進めていく。併せて、福井県観光連盟が主催するおもてなしオンラインセミナーやふくい嶺北連携中枢都市圏での観光おもてなしマイスター認定制度の活用を促すなど、観光事業者としての意識付けを高める取り組みを図っていく。

議 今回の大雨において、この規模は初めてのことであったこともあり、ボランティアとの連携・健康観察、被災者・職員の災害での動き方、運用規定に不足を感じ、専門職を置く必要性を強く感じた。

理 災害対策専門要員の雇用、設置について市の見解を伺う。

理 市職員には防災・危機管理の専門知識や対応能力が求められるが、専門の防災職員の育成には長時間を要する。退職自衛官には、災害対応への経験値や防災減災に対する対処法など様々なノウハウがあり、即戦力として危機管理対応力を向上させることができると考えていた。

理 そこで、防災安全専門員として従事する退職自衛官1名を10月1日から新たに採用するため、9月補正予算案に計上している。

議 採用後は、防災に必要な知識・経験を有する「地域防災マネージャー」の資格を取得し、防災減災に向けた啓発や計画づくり、危機発生時には災害対策本部の運営に参画していただく予定である。